

さんりんしゃ



楽しかった？と笑顔で子どもたち
を迎えるお母さん方 (^_^)

感動を共有

「ねえ、ねえ、見て、見て、お母さん」と呼びかけたとき、子どもの興味の方角に視線を向け「まあ、本当にきれいとかすごいね」のひと言があったら、子どものうれしさはどんなものになるのでしょうか。お母さんの共感の言葉と、夢を広げてくれる言葉かけでも子どもの喜びは何倍にもふくらむでしょう。こういう日常の些細な積み重ねの中で、親の愛情を感じていくと思いますよ。

はじめのいっぽ

新学期が始まって早ひと月。幼稚園生活（集団生活）が始まり「はじめのいっぽ」がスタートしました。自分の子どもの様子が気になる頃ではないでしょうか。そんな時、よその子と比べるより、「わが子の変容・成長に気づいてほしい」と思います。

同じ「いっぽ」でも、子どもによって違うのです。PTA総会の時にも話をしましたが、子どもはどの子もそれぞれの成長を続けているのです。はやいとかおそいとか個性的な違いはあっても、とにかく「発達」という現象は起きているのです。

わが子が見えなくなってしまうのは、よその子と比べているからなのです。自分の子どもを、よその子と比べることは、親としてさげられないことです。くらべまいと思っても、いつの間にか比べているのです。そして、人と比べることばかりに気を取られてしてしまいますと、必ず、そこに優劣とか遅速とかがつきものとなり、あせりや不安が大きくなってきます。そして、起こってくるものは親のエゴによる競争心です。子どもにとって、これほど辛いことはありません。

それを解消するためには、わが子の、その学習なり成長なり発達なりについてよく知ることが大切になります。

お母さんは、わが子が実質的にどれだけ成長（変容）しているかをしっかりと見届けつつ、担任と連携をとり愛情いっぱい褒めてあげればよいのです。その成長（変容）を見つめることが、子育てを楽しいものにしてくれる一つの方法だと考えます。

遊びの中で（育みたいこと）

自然に触れる体験・あれ？ふしぎ？おもしろそう！など、自然の変化などを感じたり、好奇心や探究心をもって動いたり、言葉や絵などで表現しながら活動することは、身近な事象への関心が高まると考えます。

自然への愛情やいのちの不思議さ・敬う気持ちをもつようになることは、友だちへの接し方にも変化を及ぼすと考えます。

子どもたちの主体的活動を促すような、環境の提供が必要になってきますね。保育を自分の設定した枠内で活動させることは、ある意味、楽かもしれませんが、子どもにとっては何と窮屈なことでしょう！

園としては、環境構成の工夫・改善をしながら活動を進めていきたいと思えます。

（ひと・もの・ことを大切に環境を通して育む）



令和7年度 PTA

会長：倉岡 マキ 副会長：八井田 望

ばら組学級長：成尾 真帆 家庭教育学級長：國塚 麻美
（会 計）

素敵な笑顔で、本年度もよろしくお願ひします。



職 員

よろしくお願ひします。

園長 城ヶ崎 修二
教諭 富吉 恵美（ゆり組担任・年中長）
講師 濱田 恵子（ばら組担任・年少）
講師 園田 智子（お預かり・保育補助）
講師 長野 亜矢（保育補助・お預かり）
講師 野口 あかね（保育補助・お預かり）
講師 追立 綾（保育補助・お預かり）

はじめの

いっぽ

